九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

教師の「ディスカッション教育」技能の開発と教育支援システム作り

丸野, 俊一
九州大学大学院人間環境学研究院

https://hdl.handle.net/2324/13253

出版情報：2005-05
バージョン：
権利関係：

はじめに

21 世紀の新しい時代を拓く心を育てるためには，「人の話を聞く姿勢や自分の考えを論理的に表現する能力や他者と創造的に対話（議論）する能力，いわゆる創造的ディスカッション能力を育成することが重要である」と，文部科学省が新たな方向性を打ち出してから久しい．これに応えて，教育現場では様々な試みがなされてきたが，実践的課題は大きいという声を耳にする．

創造的なディスカッション能力を育むためには，これまでの「知識伝達型授業」（断片的な知識を一方的に詰め込む）への偏りから，少し「対話型授業」へ比重を移し，両者のバランスのとれた教育を営んでいく必要がある．しかし，教師及び児童が，従来の授業の枠組みを見直し，新たな学びや教授のスタイルへの変換を図ることは容易ではない．どこにどのような問題があるかを探らねばならないが，実践家が単独で，さまざまな文脈に埋め込まれている自分の授業スタイルを対象化し，第三者の視点から問題点を可視化するのは極めて困難である．また逆に，実践の文脈や実践知の特性（身体化された知，関係性の中で拓かれる知，多様な要因が絡み合った文脈の中に埋め込まれた知）を十分に知らない研究者が実験室的な文脈の中で見いだされて来ている科学知としての理論知を実践の文脈の中にそのまま当てはめてみても，現場に役立つ，現場を動かす知とはなり難い．問題点を浮き彫りにし，新たな方向性を見いだすためには，研究者と実践家が一緒になって「対話型授業作り」に取り組む必要がある．

我々は，こうした認識のもとに，平成 14 年度から平成 16 年度の３ヶ年に渡って，「教師のディスカッション（DC）教育技能開発と教育支援システム作り」というテーマを掲げ，実践家の教育力向上に向けての理論的／実践的研究を展開してきた．本報告書は，その成果の一部である．３ヶ年間の主な研究の柱は，第一に，実践家と研究者のコラボレーションによる「実践をガイドする DC スキルに関する発達段階モデル」の構築，第二に，実践家の対話型授業の実践力の向上を求めて，対話を支える談話的風土作りや対話空間を支える教授方略としてのリボイシング（revoicing：復唱）の共有化を図る 教育支援システム（“学びの場”）作り，第三には，現場とのコラボレーションによる恒常的な「対話型授業研究会」を通して，対話を育む適切な学習／教育環境を創出することであった．未だにどれ一つとして完成しておらず，また大部分の研究が継続中である．いずれは全てのテーマに関する研究を完成させ，できるだけ教育現場や社会に役立てたいと考えている．

最後に，この研究を進めるにあたって，実践家として優れた知見を惜しみなく提供すると共に，協同研究者としての役割を果たしてくださった北九州市立の小学校に勤務されている諸先生（稲田，牧野，山下，田頭，北川，樫村），対話型授業研究会としての“学びの場”の拠点として協力して下さった筑紫野市立阿志岐小学校の諸先生，その中でも中心的な役割の労を取られた黒岩眞理子校長並びに山本俊輔先生，さらには日本教育心理学会等でのシンポジュームでの話題提供者として貴重な実践知を提供して下さった全国の諸先生に感謝申し上げたい．そうした多くの諸先生や現場の暖かいサポートや協力がなければ，この研究は展開できなかったであろうし，その意味では，この研究成果報告書はまさに多くの現場教師の協力と英知の賜物である．

またデータ整理および分析にあたっては，私の研究室に所属する大学院生や研究生に大変お世話になった．心より感謝申し上げたい．

平成17年５月　　丸野俊一